

概要報告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 特別支援教育部会

テーマ 『身体意識を高める授業づくり』 ～体づくり運動を通して～

提案概要

◎実践概要

言葉でのコミュニケーションが難しく、見通しのきかないことに対して不安を示すA児に対し、「体づくり運動」を通して、身体意識を高められるような授業づくりに努めてきた。11月と2月の2回に渡り、作業療法士の方を講師として招き、身体意識を高めるための指導法について助言をいただき、様々な活動を継続して行う中で、A児にとって、適切な支援が行えるよう取り組んだ。

講師の助言による指導法の工夫、学期毎の子どもの活動の様子などの実践を丁寧に報告された。

◎成果と課題

A児は、基本的な動きについては動作模倣できることが多く、身体意識の向上に対する取組において、個別支援を行うことで、少しずつではあるがA児なりの成長が見られた。

今後は、一つひとつの運動をさらにしっかりとできるようにすること、例えばラジオ体操の回旋運動では、両腕を大きく回すことができること、いろいろな動きの中の腿上げにおいては、両足を交互に高くあげることができるようにすること等をねらっていきたい。また、各運動を通して、柔軟性や筋力、バランス感覚等を養い、さらに身体意識を高めていくための指導はどうあるべきかが課題と考えている。

質疑概要

- ①多様な動きをつくる運動遊びの視点から、A児や他の児童を盛り上げる導入としてどのようなことをしていたのか。
 - ・遊びの視点では、楽しいと感じさせることは大切であるが、特に盛り上げるようなパフォーマンスはしていない。
- ②A児は、交流学級にどの程度交流しているのか。
 - ・集団に入ることも課題であり、交流は、たぶん参加できるであろう内容のものから交流している。支援学級の中で、集団の基礎を学ぶことが大切。
- ③持久走や長縄の取組で、手順や頻度など具体的に教えてほしい。
 - ・持久走には、毎朝のウォーキングや体育の中では持久走として取り組んだ。残り何分と終わりがわかるようにした。長縄は、1回旋1跳躍ができる児童を見本にするなど、個別に支援を工夫した。交流級の先生にも支援法を教え、交流級での休み時間の練習にも参加した。
- ④日常生活の場面では、A児にどのような成長がみられたのか。また、アセスメント方法があれば、知りたい。
 - ・繰り返しの学習により、「ありがとう」などの短い言葉を言うようになってきた。教科カードを見て教科がわかり、貼ることができるようになった。家庭では、まぜるなどのお手伝いをするようになった。アセスメントはしていない。毎時間を観察してその都度目標をかえていく。

研究協議概要

- ①特別支援学級における体育科の授業の在り方、及び個の実態に合わせた指導の工夫
 - ②外部講師の活用について
 - ③円滑なチームティーチングの在り方
- の3本の柱を中心にグループ協議を行った。

地域により体育の授業への参加の仕方が違い、交流体育を中心にしていたり、支援級の体育が中心であったりするといった交流学习についての情報交換も活発に行われた。

次は、各グループで協議された内容を柱ごとにまとめたものである。

- ①児童数に対して担任や介助員の数が少ない、児童一人ひとりの実態の差が大きく一斉指導での困難さを抱えている学校が多かった。
- ・体育科の授業では、運動量を確保し、楽しく体を動かすと同時に、待つ、我慢するといった、集団にとけこめることもねらいとしている学校もあった。
 - ・指導方法としては、みんなで一斉に行う内容の後に子どもの実態に合わせた内容で分けたり、サーキット運動のように優しいコースと難しいコースに分けて一緒に行ったり、始めから個別やグループといった少人数に分けて指導をしたりしている。
 - ・毎時間の積み重ねが大切であり、繰り返し取り組むことで成果が見えてくる。
 - ・個の実態に合わせた指導の工夫では、高学年をお手本として見て学ぶ、イラストカードなどの視覚化、好きなキャラクターを用いる等、具体的な声かけや補助の仕方が様々でできた。
- ②授業を外部講師の先生に見てもらい指導を組み立てていくことは新しい視点を得るうえで大切なことである。そのため、外部講師として地域の養護学校等から専門職の先生を呼んでアドバイスをもらったり、アセスメントをとってもらったりし、個の実態に合わせた指導をしている学校が多かった。しかし、地域によってはなかなか呼ぶ機会がないという学校もあり、自費で研修を受けているという方もいた。
- ③授業の計画について、教員間や介助員と話し合う時間がとれないこともあるが、T1の指示に他の教員もついていくことで、児童が安心して授業に取り組むことができるため、工夫や心構えが必要になってくる。最初の活動の時にちゃんと話し合い、その後は修正を加えていくようにするとよい。

まとめ概要

- ・体育科の中で、体験させた色々な動きは、日々の生活の中で活かされていく。年間を通して取り組むことが大切である。
- ・継続をして取り組んできたことで、一人ひとりの実態に応じた動きに合わせることができた。
- ・教師間で、活動内容がどのような動きにつながるのか、ねらいは何かということを通理理解していることが大切である。
- ・内容を個に応じて変えていき、優しいところ→できた！→徐々に手ごたえのあるものに変えていくことが大事。
- ・外部講師については、特別支援学校のセンター的機能を活かして、専門職の先生を活用していけるとよい。また、いただいたアドバイスは、通常級の職員も含めた全職員にもつなげていくことができると良い。